

番組審議会

第677回

2023年12月

■ 審議会の構成 委員総数 10名

委員長 音 好 宏

副委員長 江 澤 佐知子

委 員 尾 縣 貢 萱 野 稔 人

喜田村 洋 一 佐 藤 智 恵

洞 口 依 子 長 嶋 有

水無田 気 流 目加田 説 子

TBSテレビ 佐々木 社 長

龍 宝 取締役

井 田 取締役

瀬戸口 編成局長

中 田 編成考査局長

菊 カスタマーサクセス部長

市 川 番組審議会事務局長

■ 議事概要

1. 審議事項

(1) 今年のTBSテレビの番組全般、及び放送界について

(2) その他

2. 事務局報告事項

(1) 視聴者からの声について

(2) 次回審議会について

【委員の主な意見】

◇ 2023年印象に残ったTBSの番組

□ 「戦争と子どもたち2023⇒1945」

- ・戦争で子供たちの状況がどう変わったのか、海外支局の特派員たちが短い言葉で的確に伝えてくれたところに感銘を受けた。
- ・戦争を伝えることは大事だし、過去の戦争は現在にもまっすぐつながっていることをこの番組は教えてくれた。
- ・海外特派員による丁寧な取材と発せられる言葉に様々な気づきを与えられた。

□ 「VIVANT」

- ・圧倒的なスケール、自然の大きさ、映像の美しさにこれまでのドラマを超越したものを感じた。
- ・ネット界をリードした番組制作として、歴史的変化に貢献した作品である。

□ 「ジョンソン」

- ・ベテラン芸人をトップに据えず、若手をメインにして新規の才能も試そうという、自覚的に「お笑い」という武器を磨き上げようとしている気配が伝わった。

□ 「THE TIME,」

- ・試行錯誤を重ねながらブラッシュアップを進めていることが印象に残っている。
- ・各局で報道・情報番組がしのぎを削る時間帯の中で存在感や独自性をしっかり出せている。

□ 「WBC2023」(準決勝・決勝)

- ・テレビ局によるスポーツ中継の威力、影響力をあらためて実感した。

□ (ニュースサイト) 「TBS NEWS DIG」

- ・とても充実していて読み応えがあり、しっかりと問題を掘り下げた記事が多い。
- ・こうしたニュースサイトの拡充がテレビ局への信頼性を高めることにつながる

「報道特集：【検証】 ジャニーズ事務所とTBSの関係 性加害問題 報じなかった背景」

- ・他の民放テレビ局の中で最も早く自己検証番組を制作し、沈黙の背景に迫ったことを高く評価する。
- ・今後同様の人権問題が生じた際にはBBCよりも先に世界に向けて報道することを期待したい。

◇TBS全般および、今後のTBSに望むこと

近年、力を入れる一連の調査報道を含め、現場主義に基づく報道姿勢は是非、継続していただきたい。

報道とドラマという両立が難しい二枚看板を大事にしてほしい。

SDGsや反戦への取り組みは、他の局と比較しても積極的であり、この姿勢を貫いてほしい。

ドラマのTBSとして脚本家を養成するくらい、テレビドラマ脚本を大事にしてほしい。

親子の絆を深めるツールとして、テレビは重要だと認識している。

「SASUKE」や「WBC」のようにスポーツの分野でも世界に通用する番組を制作してほしい。

◇ 放送界全般について

放送倫理を遵守することはもとより、万が一、ミスを犯してもその事実には誠実に向き合い、姿勢を正していくことが肝要と考える。

□インターネットと異なるテレビが果たす役割として自然災害などの緊急情報を広く対象に正確に伝えることが挙げられる。高齢者にとってその優位性は強調されるべきである。

□現在は「日本市場を主ターゲットにして作った番組が世界でもヒット」というケースが見られるが初めから世界市場をターゲットにした番組作りにも挑戦してほしい。

□動画配信サービスの台頭によってテレビの広告収入の減少傾向が続いているが一方で新たなビジネスチャンスも生まれている。今後は動画配信サービス企業とうまく共存していくことが必須となるであろう。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。(TBSテレビ番組審議会事務局)